



vol.10

秋です。ずいぶん過ごしやすい気候になってきました。食欲やスポーツといえば秋ですが、読書もまた秋が一番はかどる季節です。一度読書に没頭してみてもいいでしょうか。

最近こんな活動してます！ (8月～9月)

最近の学読班は…

夏休みを通じて読書しりとりをしました。がくどくの「く」から始めて書名でしりとりをしていきました。また、9月30日には耐久八時間読書を敢行。一心不乱に読書に熱中しました。

今後は後期スタートにあわせて学読的活字中毒などの計画を進めていきたいと思います。



書籍からのお知らせ

教科書販売のお知らせ

後期の授業の教科書が販売されます。学部や科目ごとに日時等が異なりますのでご注意ください。

●全学教育科目と文系学部専門科目●

場所：南部書籍

販売日時：9/28 (木) ～ 10/20 (金) 10:00 ～ 17:30

●理・農・工学部専門科目●

場所：Booksフロンテ

販売日時：9/28 (木) ～ 10/20 (金) 10:00 ～ 19:00

●医学部保健学科専門科目(2～3年生)●

場所：大幸キャンパス売店となり

販売日時：9/29 (金)一日限り 10:00 ～ 17:30



×切迫る！ 読書マラソンコンテスト

読書マラソンのコメントの中から優秀作品を表彰するこの企画、応募×切は10月11日となっています。期間中は何通でも応募可能ですので、もう投稿した人もまだしていない人も、今まで一度も読書マラソンのコメントを書いたことがない人も、ふるってご参加ください！

学読的 読書好きな輩が送る今月の一作

活字中毒

夏休み期間中、活字中毒拡大版として学読班は南部書籍で6冊の本を紹介していたのをご存じでしょうか。何を読もうか、考えあぐねているそこのあなたに朗報です。

◆夏休み期間中紹介していた本+コメント◆



『ゴールデンボーイ』
スティーヴン
キング著
出版社:新潮社

1 編目「刑務所のリタ・ヘイワース」は無実の罪で刑務所に入れられた男の物語で、映画の「ショーシャンクの空に」の原作です。刑務所での出来事が淡々と語られ、最後まで展開も実に読みがいがあります。ただ、映画も(少々やり過ぎですが)素晴らしいので原作より先に観た方がいいかもしれません。
2 編目「ゴールデンボーイ」は元ナチスの老人とそれに興味を持ち追及する少年との不気味な交流が描かれています。心の闇というか狂気が見えてくるぞっとするような話です。



『雲のむこう、約束の場所』
新海 誠
加納 新太 著
出版社:
エンターブレイン

とにかく不思議なお話です。初めは少年少女の交流を描いた物語だと思っていたのですが…途中から話の展開に頭が追いつかなくなったりもしましたが、心が洗われるような感じのするお話でした。一つのこと打ち込めるということは素晴らしいことだと改めて感じさせられました。



『空飛ぶ馬』
北村 薫 著
出版社:東京創元社

女子大生の「私」と断家の春桜亭円紫がささやかな謎について思いを巡らし、鮮やかな答えを出す短編ミステリ集です。作者の北村薫さんは日常の謎のミステリの第一人者であり、書かせたら右に出る人はいません。この本はデビュー作ですが、当時は北村さんが男性か女性かで話題になりました。男性ですが、まるで女子大生が書いているかのような繊細な女性の心理と言葉の柔らかさでミステリイとしてだけでなく、小説として非常に素晴らしいものになっています。人が死ぬのはいやだけど、論理的な謎解きを楽しみたい人に特にお勧めします。



『博士の愛した数式』
小川 洋子 著
出版社:新潮社

この物語は、80分前のことしか記憶できない数学者と家政婦、その子供との日常を描いた作品です。80分前のことしか記憶できないということは、家政婦はいつまでたっても新人の家政婦というわけです。家政婦が何度も初めての自己紹介をするところがとても悲しい場面だと思いました。
しかし、家政婦の子供である、√(ルート)の存在により、博士にも少しではありますが変化が生じます。ぶっきらぼうだった博士が√に見せる表情がとても優しく暖かいです。



『君主論』
ニッコロ・
マキャヴェリ 著
出版社:中央公論社

マキャヴェリが愛する祖国が戦乱の中世ヨーロッパの勝者になることを願い、重要な選択をする手助けになるように仕える君主に捧げた本です。歴史上のリーダーによる選択と結果から冷徹なまでに人間の本質を見極め、それに基づいて目的に対していくつかの手段を比較し、最善のものを選び出すプロセスを具体的にあげながら説明していく様は「社会科学の祖」と呼ばれるにふさわしい論理的なものだと感じました。



『定刻発車』
三戸 祐子 著
出版社:新潮社

日本の鉄道はなぜ正確なのか?と聞いて、「そんなの当たり前じゃん」と思ったあなた。日本の鉄道の発着時刻の正確さは、外国と比較にならないほどに正確なのです。そのために、どのような努力が行われているか?なぜ正確である必要が?それは日本の文化とも密接に関わってきました。「鉄道」という巨大なシステムの中で、列車は一角にすぎないのです。そのシステムに代入り取材で挑んだ本著を読めば、日々の通学もまた違ったものになる…かも。

偉人たちは皆一様に読書を勧めています。

私たちも先人の知恵にあやかって読書に励んでみませんか?

文責:学生に読書を薦める班(学読班)

高校の頃のはかるたもやっていたので、文化祭では巨大カルタを制作して、浴衣で走り回りました。(みっくす)
今年は名大祭にガッツリ参加してきました!焼きうどん焼いたり、広島焼手伝ったり、歌うたったり、パフェの売り子したり…俺よく4日間であれだけの事したなあ。(ひらのん)